

柿園かきそのは妙安寺めうあんじの南にあり、松永貞徳住み給ひし遺跡なり。

貞徳家集曰　大和やまと大路おほちのひんがし、大仏殿の南に地を申請て、柿園と名づけ、花を見実のなるを植て、超子てうす昂がうが書し

法華経を梓にちりばめ、千部すりて八千歳になぞらへ、報恩蔵を造り納めらる。内陣の戸びらに聖徳太子達磨大師しやうとくたいしたるま だいし

の御影、人丸貫之定家紫式部の画像をうつし、妙法院二品法親王めうはふあん にほんほうしんめう（堯然げねん）讚をさせ給ふを、四ひらの戸にはりて、

吟花廊をつたひ、蘆の丸屋をかまへ。やよひ中の八日はつき廿日に東光院殿玖山公泰勝院玄旨法印とうくわうあん でんきうさんこうたいしやうあんげんし はふあんの法楽の会た

えずなん。（下略）

〔貞徳翁ていとくをう、童名勝熊しょうゆうといひしとき、九条殿下くでうてんかへまいり、源氏物語を読せられ、孟津まうしんの御抄書写御ゆるし、御所

にて全部功終ければ、御序跋かきこき御筆を染られける。源氏のよみくせ、すみにごり、三箇の大事、止観の

御説まで相承して、後妙蓮寺めうれんじにて竟宴の連歌執行しに、殿下ならせおましくて、御発句に

花に猶道分そへんゆくへかな　九条殿下

春はかすみにひかれぬる袖　勝熊

鷹とはふすゑ野のきゝす鳴すてゝ　玄旨法印